

骨増生手術

ふれあいファミリー歯科

1. 骨増生・骨移植とは

骨増生とは、骨を増やす手術の総称であり、骨移植を含め様々な方法があります。術者の高い技術はもちろん、治療部位や残っている骨量によって適した方法は違ってくるため、適切な診断が求められます。骨がやせてしまうと、安全なインプラント治療が行えないため、治療を断られてしまう場合がありますが、当院では患者様のお口の状態に合った骨増生法により、骨量が不足している方にもインプラント治療をご提供しています。

2. 骨増生(骨移植)のメリットとデメリット・リスク

(1) メリット

- ① 骨量を増やすことによって、治療が可能になります。
- ② 安全性や審美性の向上につながります。
- ③ 歯茎のバランスを整えることが可能です。

(2) デメリット・リスク

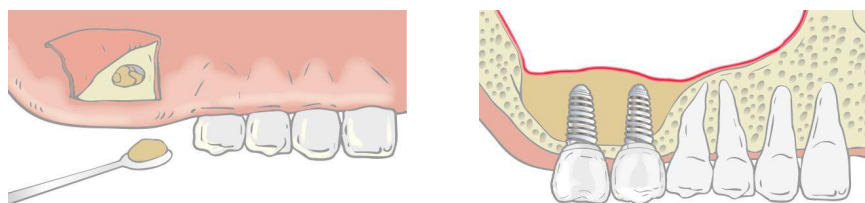
- ① 骨増生分の費用が発生します。
- ② 通院回数が増えたり、治療期間が長くなったりする場合があります。
- ③ 骨増生法の種類によっては、手術回数が増えます。
- ④ 通常のインプラント治療よりも、痛みや腫れが生じやすくなります。
- ⑤ 通常のインプラント治療よりも、感染のリスクが高まる場合があります。
- ⑥ **喫煙**により骨形成能を減弱させ、骨質の低下を招き、インプラント体との結合を阻害させる場合があります。



3. 骨増生のデメリットを軽減するために

当院は、安全性や機能的性、審美性、長期的安定などの面から、総合的にみて設計し、患者様に合ったインプラント治療をご提案しています。

使用するインプラントの種類(長さ)や埋入角度によって、骨増生を回避できる場合もあるため、あらゆる角度から検証し、より患者様の負担が少なく、質の高いインプラント治療をご提供できるようにしています。



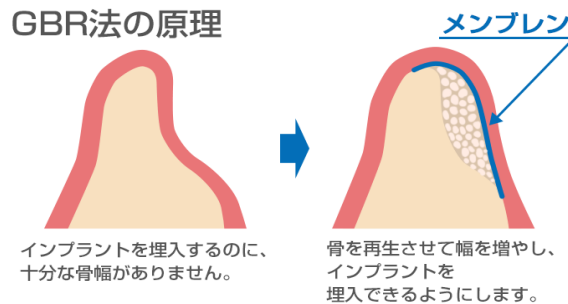
当院で行う主な骨増生手術

ふれあいファミリー歯科

1. 骨が細い場合の骨増生～GBR法～

(1) 概要

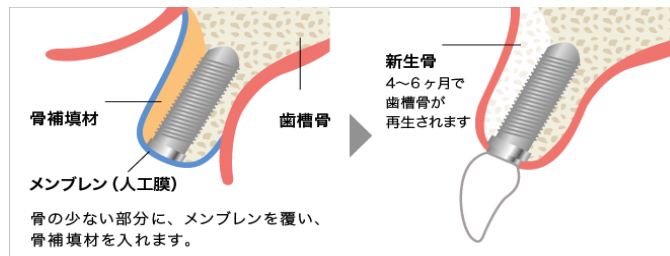
歯を抜いてから長期間放置していたり、抜歯時の炎症が大きく骨へのダメージが大きい場合は、その後のインプラント治療が難しくなる場合があります。具体的には、骨が痩せて細くなってしまう、インプラントのまま、歯の部分の被せ物を作ってしまうと、はみ出したチタン表面が歯ぐきで覆われず露出してしまいます。それを防ぐために、骨が不足している部分に骨を増生する必要があります。その術式を**GBR法(Guided Bone Regeneration: 骨再生誘導法)**といいます。



(2) 術式の種類と適応

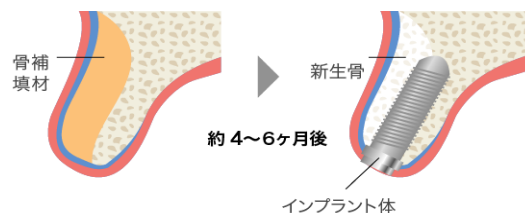
①同時法

インプラントを埋入できるくらいの骨はあるものの、インプラントの一部がはみ出してしまう場合に適用されます。比較的、よく行われる術式ではみ出したインプラントの表面に人工の骨とメンブレン(保護膜)を置くことで、インプラント体周囲がすべて骨で囲まれるように骨増生を行います。**インプラント埋入と同時に**行うことが可能なため、比較的短い治療期間で治療が完了します。



②段階法

骨が極度に細く、インプラントの埋入自体も困難な場合に適用となります。具体的には、同時法と同様に人工骨とメンブレンを併用し、骨増生を行います。また、欠損部が大きい場合は、下顎の親知らずがある(あった)場所付近からブロックで骨を採取し、不足した部位に移植を行います。移植をした後、**約4~6ヶ月待ってインプラントの埋入手術**を行います。同時法と比較して、治療期間が長くなることと、場合によってはインプラントを埋入する部位以外にも外科的侵襲が必要になることが大きなデメリットとなります。



当院で行う主な骨増生手術

ふれあいファミリー歯科

2. 上顎の奥歯で骨がない場合の骨増生～上顎洞底挙上術～

(1) 概要

上顎の奥歯のすぐ上には、副鼻腔の一つである上顎洞という空洞があります。この上顎洞までの骨量が不足している場合は、上顎洞底挙上術という骨増生法で骨を増やすことが可能です。

通常、インプラントの長さは約7～10mm前後のものを用います。

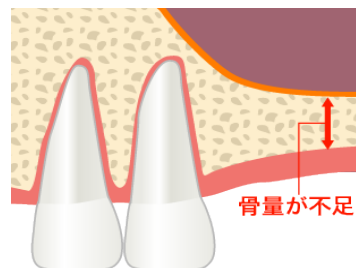
そのため、既存骨(現状での骨の量)の高さが9mm以上ある場合は、骨増生を行う必要はなく、そのままインプラントを埋入することが可能です。しかしながら、既存骨量が**7mmに満たない**

場合は、上顎洞の底部にある粘膜(上顎洞底粘膜:シュナイダー

膜ともいう)を挙上しスペースを作り、そこに骨増生をすることで骨の高さを増やす処置、すなわち**上顎洞底挙上術**が必要となるのです。

この骨増生法には大きく分けて2つあり、既存骨の量によって適応が変わります。

上顎の奥歯部分の骨の高さが**3～5mm以上**ある場合は**ソケットリフト**、**3～5mm以下**の場合は**サイナスリフト**を行います。当院では主に、**ソケットリフト**を行っております。



この骨増生法には大きく分けて2つあり、既存骨の量によって適応が変わります。

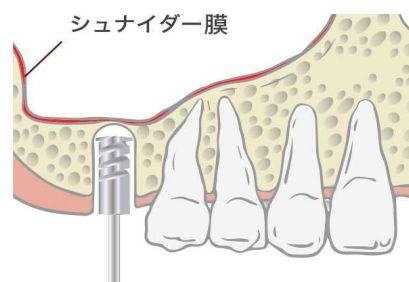
上顎の奥歯部分の骨の高さが**3～5mm以上**ある場合は**ソケットリフト**、**3～5mm以下**の場合

は**サイナスリフト**を行います。当院では主に、**ソケットリフト**を行っております。

(2) ソケットリフトの術式

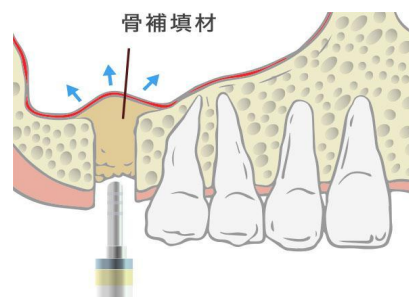
①シュナイダー膜を傷つけないように、インプラント

を埋入する箇所のおごの骨に穴を開けます。

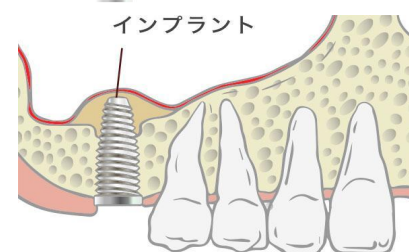


②顎の骨に開けた穴から専用器具を使って

シュナイダー膜を押し上げ、骨補填材を入れます。



③十分な高さができたらインプラントを埋入します。



④術後**4～6ヶ月**の期間を置くと骨増生した部分が硬くなる

ので、安定したのが確認できましたら上部構造物を装着します。